

立地適正化計画に係る計画目標値設定の考え方



次のページへ続く

■本計画実施による効果

・鉄道3駅を中心とした都市機能誘導区域における誘導施策の実施により、各種生活利便施設の立地が促進され、行政、商業、医療・福祉施設等の都市機能が集積した拠点としての利便性が高まることになる。これにより、都市機能誘導区域を訪れる人が増加し、各都市機能誘導区域において、これまで以上のにぎわいの創出が期待される。

・市全域において様々な施策を実施することにより、各ゾーンにおいて子育て世代やシニア世代をはじめ、誰もがそれぞれのライフスタイルやライフステージに応じた希望する暮らしを送り続けることや、操業しやすい環境の向上が可能となる。以上のように、各ゾーンにおいて希望する暮らし、営みが行われることにより、地域コミュニティの持続・強化や地域の魅力の向上につながり、定住や持続的な操業への意識が増進することが期待される。

・鉄道3駅を中心とした都市機能誘導区域における広域からの利用が見込まれる生活利便施設の立地、市内各地域における住環境や操業環境の形成・向上と併せて、今後の高齢化の進展も踏まえつつ、市内全域がそれぞれ公共交通により結ばれた、安全で快適な移動環境を維持・向上させることにより、市内全域における利便性や暮らしやすさが増進することが期待される。

計画運用の効果を評価する計画目標値

これまで立地適正化計画が策定・公表されている他自治体の立地適正化計画における計画目標値としては、算出・計測が比較的容易である「人口（密度）」「誘導施設数」「歩行者自転車交通量」「公共交通利用者数」等を設定しているところが多く見られるが、これらの計画目標値では、本計画で掲げたまちづくりの目標である「生活の質を高める」ことを評価、判断することが難しいため、市内における生活をはじめとした都市活動の主体である市民の目線から本計画における目指すべき将来像の実現度合いを見定めることに主眼を置くこととし、市民の意識（満足度等）に基づいた計画目標値を設定する。また、計画目標値の達成状況についてその要因を分析し、計画の評価につなげるために計画目標値を補完する指標を用いるものとする。

■計画目標値（案）

計画目標値1	駅周辺ににぎわいや魅力があると思う市民の割合	
現況値	調査未実施	2018（H30）年度 【2018（H30）年度調査実施に向け調整中】
目標値	現況値+5%	2028（H40）年度【中間時点】
	現況値+10%	2038（H50）年度【最終目標時点】
計画目標値を補完する指標	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域における地価に関する指標 都市機能誘導区域における人口に関する指標 	

計画目標値2	住み続けたいと思う市民の割合	
現況値	調査未実施	2018（H30）年度 【2014（H26）年度調査結果は76.2%】
目標値	現況値+2%	2028（H40）年度【中間時点】
	現況値+4%	2038（H50）年度【最終目標時点】
計画目標値を補完する指標	<ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域における人口に関する指標 	

計画目標値の評価について

計画目標値は、4年に一度実施している「戸田市市民意識調査」と連携し、目標の達成状況を把握することを基本とする。達成状況の把握は、市民意識調査の結果に対して、計画目標値を補完する指標等の分析により考察を行うと同時に、本計画の評価を実施することによるものとする。

計画目標値のうち「住み続けたいと考える市民の割合（戸田市に住み続けたいか）」については、市民意識調査において既に設問項目があり、2014（平成26）年度に実施した第11回調査では、「住み続ける」が33.4%、「たぶん住み続ける」が42.8%の合計76.2%という結果であった。また、「駅周辺のにぎわいや魅力があると感じる市民の割合」については、2018（平成30）年度実施予定の第12回調査への設問追加に向け、調整を行っているところである。